

令和2年度学校評価報告

斑鳩町立斑鳩東小学校

<p>教育目標</p>	<p>自ら学び、仲間と共に 心豊かに たくましく生きる児童の育成</p>			<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
<p>教育方針</p>	<p>自ら学び、仲間と共に、心豊かに、たくましく生きる児童の育成を目指し、基礎的、基本的な知識・技能・態度を身につけさせるとともに、自ら判断し、仲間と問題をよりよく解決していく「生きる力」を身につけさせる。</p>			
<p>学校経営ビジョン</p>	<p style="text-align: center;">めざす学校像</p> <p>地域に開かれた、信頼される学校 ○保護者・地域の声を聞き、学校改善に取り組む学校 ○学校公開、学校の情報、子どもの様子を発信する学校 ○保護者・地域の教育力を活用する学校 ○幼小中及び関係機関と連携した取組を行う学校</p>	<p style="text-align: center;">めざす教師像</p> <p>○教えるプロとしての指導力を身に付ける。 ○温かさや厳しさをもって指導する。 ○子どもと一緒に活動し、感動を大切にす。 ○明るく、心身の健康に努める。</p>	<p style="text-align: center;">めざす児童像</p> <p>○よく考える子……「確かな学力の育成」 ○支え合う子……「豊かな人間性の育成」 ○たくましい子……「たくましい心身の育成」</p>	
	<p style="text-align: center;">前年度の評価と課題</p> <p>・昨年度の全国学力学習調査の結果より、問題文を最後まで集中して読み続ける力、問題文を筋道に沿って理解する力、問題を的確に把握する力、基礎基本の知識をもとに、問題に応じて活用・応用する力、自分の意見を持ち、伝えるように表現する力に課題があることが明確になった。 ・「家庭学習の手引き」を学年ごとに作成し啓発を行うことで、目標数値に近づけることはできたが、学年や個々による差が大きい。 ・児童の挨拶や場に応じた言葉遣いがなかなか定着しない。 ・全体的には、家庭内の生活リズムは安定しているが、習慣的に外遊びをしている児童は固定化されている。</p>	<p style="text-align: center;">今年度の重点目標</p> <p>1 「主体的、対話的な深い学び」をめざした授業改善を創造し、本校児童の学力課題である「思考力」「表現力」「読解力」の向上に努める。また、基礎学力の定着を図り、個に応じた指導を工夫しながら、わかる授業の促進を行う。 2 多様な違いを認め合い、和の精神のもと思いやりのあるいじめを許さない集団づくりを目指し、道徳教育・人権教育、学年・学級活動の充実を通して、認め合い、支え合い、高め合う集団づくりに努める。また、自主、自律のある学校生活を送れるよう、規範意識や集団意識の向上を図る。 3 アンケートや観察を通して児童の実態を把握しながら、児童の心のケアに努め、健康的な生活習慣の充実に向けた具体的な取組を促進する。 4 ホームページ等を通して積極的に情報を発信し、学校としての説明責任を果たすとともに、学校と保護者・地域が連携した教育目標の達成と教育課題の克服に取り組む。</p>		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価	成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
<p>確かな学力の育成</p>	<p>教材研究や授業の工夫・改善を行い、わかる授業に取り組む。</p>	<p>○日々の教材研究を充実させ、学習環境の準備と子どものわかる授業の指導を行う。 ○ICTの活用により、わかりやすい授業の創造を図る。 ●子どもへのアンケート調査「学校の勉強はわかりやすい。」に対してA評価60%以上、A+B肯定評価を85%以上を目指す。教員アンケートで、A評価90%以上を目指す。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>児童アンケートの結果、A評価54%、B評価35%で、A+Bの肯定評価は89%の結果にとどまった。目標値には届かなかったが、昨年度は、A+Bの肯定評価が85%であったので、少しずつ改善はしている。学習環境の安定で意欲と集中力を高め、ICTの活用や通級指導担当との連携により、個々への配慮にもなり、授業の充実につながったのではないかと考えられる。</p>	<p>まずは、学習規律の徹底を図り、児童が安心して学習に取り組める環境を確立・維持することが大切である。そのことが、児童の集中力にも直結すると考える。また、個々の特性に配慮したユニバーサルデザインの視点や児童が主体的に取り組む題材の設定や学習の展開、ICTを効果的に活用しわかりやすい授業展開を今後も組み立てていく必要がある。</p>	<p>・ICTの活用がこれから広がっていくと考えられるが、全学年でどのような活用ができるのか気になる。低学年では、国語や算数の基礎的な学力やなまづくり等、基礎的な生活習慣を身につけさせる必要がある。 ICT活用だけに終わられて、それ以外の大切なことを見落とさないようにしてほしい。 子どもたちの確かな学力の育成のための手段として、タブレット等が使われていかなければいけない。 ・昔は黒板とチョークだけの授業が当たり前であったが、授業参観をさせていただ</p>
	<p>安心して学べる環境づくりに取り組む。</p>	<p>○互いの学び合いを大切にできる落ち着いた学習環境と豊かな人間関係の形成の充実を図る。 ●学習意欲アンケートの「安心して学べる環境づくり」のそれぞれの項目でA+B肯定評価を80%以上を目指す。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>学校意欲アンケートでは、質問74%、賞賛76%、落ち着いた環境84%、発言77%で平均78%であった。昨年度は、平均73%であったので、目標には届かなかったが落ち着いた学習環境になってきている。コロナ禍の中で学習内容が制限されたこともあり、互いの学び合いが深める環境までには至っていない。</p>	<p>来年度のコロナ感染の状況はわからないが、今年度から研修を深めている、教師主導型から子どもが主体的に活動し互いの学び合いが深まる協同的な学びを発展させていく。</p>	
	<p>「主体的、対話的で深い学び」の創造をめざし授業改善に取り組む。</p>	<p>○「主体的・対話的な授業を目指して、～協同と探求を学びの基盤として～」の研究主題に取り組む。 ●子どもへのアンケート調査「授業中、進んで発表する。」のA評価を40%以上、A+B肯定評価を70%以上を目指す。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>児童アンケートの結果、A評価33%、B評価27%で、A+Bの肯定評価は、60%の結果になった。コロナ禍の中、声を出して発表する機会が制限されたことも関係しているかもしれないが、目標値には届かなかった。昨年度は、肯定評価が56%であったので、少しずつ改善していると考えている。</p>	<p>今年度は、コロナ禍の影響で研究主題の共同と探求を目指す学び合い学習がほとんどできなかった。来年度のコロナの影響で学習にどれだけの制限がでるかかわからないが、授業研究を深め研究主題に迫っていく必要がある。</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価	成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価	
	繰り返し学習させることにより、基礎学力の充実と個に応じた指導の工夫を図る。	○基礎学力定着を図るため、学年会議や学力向上委員会にて情報交換を行い、各学年の取組に活かす。 ●教員アンケート肯定評価80%を目指す。	A	B	教員アンケートは、肯定意見が93パーセントと昨年度よりも5ポイントアップし、目標値を超えることができた。コロナ禍の中、学習の遅れを取り戻し児童に基礎学力定着のため繰り返し学習させることを先生方が危機感を持って意識した結果だと思われる。	来年度も基礎学力定着のため、個々の児童の実態を把握しながら、学年会議で情報交換を行い、継続的に取り組めるようにしていく。	て、電子黒板等ICTを活用している先生がたくさんいる。これが普通になってきている。今、教育の転換期にきている。ICTの活用が子どもの確かな学力につながるよう期待している。
	家庭学習の習慣化と充実をめざす。	○「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の時間(10分×学年+α)の定着とその内容の充実をめざす。 ●学習意欲アンケートで、70%以上を目指す。	B		児童アンケートの結果では肯定意見は72%、学習意欲アンケートでは67%の結果になった。平均すると約70%であるが、学年によってばらつきがあり家庭学習の定着には至っていない。	今年度は、学校全体での家庭への啓発ができなかった。家庭学習の時間については、学年や個々による差も大きい。今後も学年会議等で宿題の量を検討しながら家庭への協力も含め、この数値を高める工夫が必要である。	
		○基礎学力及び学習内容の定着を目的とした、学習課題を毎日提示する。 ●子どもへのアンケート調査「宿題を毎日きちんとしている。」で、A評価を75%以上、A+B肯定評価95%以上を目指す。	B		児童アンケートは、A評価70%、B評価20%、A+Bの肯定評価は、90%の結果になり、昨年度と同等の結果になった。目標値を達成するためには、宿題ができない課題を抱えている児童に視点をあて、家庭学習を定着させる必要がある。	今後も継続して基礎学力定着のために日々のドリル学習等を進める。個々に応じた宿題を提示することで、達成感を味わい意欲につなげ、学習習慣を身に付けさせ、課題を抱えている児童へのサポートをしていく。	
豊かな人間性の育成	自ら進んで元気よくあいさつをする子どもの育成に取り組む。	○定期的なあいさつ運動や各学級での啓発を促進し、一人一人への意識付けをはかる。 ○学級活動や道徳の時間を活用して、あいさつについて考えさせる。 ●児童・保護者・教員アンケート結果で、肯定的な回答 80%以上を目指す。	B	B	教員の自己申告シートでも、挨拶のできる児童の育成を目標に掲げている教員も多く見られ、学校全体の課題として捉えている。児童アンケートの結果では、A+Bの肯定意見が71%にとどまった。保護者アンケートでは、肯定意見は91%みられたが、登下校中のボランティアや地域の方への挨拶が見られないとの意見もいただいた。	挨拶のできる児童の育成を目指し、学校全体の課題として教員だけでなく、保護者にも協力を求め取り組んでいきたい。目標を達成できる方策を生徒指導部と相談しながら進めていく。	・参観をさせていただいて昨年度に比べて全体的に落ち着いている雰囲気を感じた。 ・挨拶は、ボランティアで登校指導をしていますが、評価にあるようにできていない学区が多い。しかし、中には高学年が率先して挨拶してくれる学区もある。挨拶指導は、学校だけでなく、保護者や地域の地区委員とも連携して取り組むことが必要。
	「場」に応じた丁寧な言葉遣いができる。	○学校の教育活動全般を通して、「場」に応じた言葉遣いについて考えとともに、道徳の時間を活用し、丁寧な言葉遣いについて考えさせる。 ●児童・教員アンケート結果で、A+B肯定評価を80%以上を目指す。	B		児童アンケートの結果、昨年度とあまり変わらず、A+Bの肯定意見は、72%の結果になった。個々の指導の徹底ができていない。できていない児童には、配慮が必要な児童と重なることもあるので、その対応への研究も必要である。	日頃の学習指導や道徳の時間を活用し根気よく指導していく必要がある。大人である教員が模範を身に着けていく必要もあるため、教員の意識も高めていく。	
	ちがいを認め合い、いじめを許さない集団づくりを進め、思いやりの心を育てる	○教育活動全体を通して、互いの人権を尊重し、互いを思いやる意識を育てる。 ●学校児童及びいじめに関するアンケート等で、「友だちと協力して仲良く過ごしている」「仲良しの友達がいる」と回答する児童90%以上を目指す。	B		児童には、日々の教育活動全体を通して、なかまとの繋がりがりや、違いを認め合う集団づくりについて、様々な角度から指導してきた。児童アンケートでは、「友だちと協力してなかよく過ごしている」の肯定意見が93%ではあるが、11月のいじめアンケートでは、軽微な事象を含めると嫌な思いをしたことがある児童は、たくさんいる。	日頃の学習活動や道徳の時間を使って、いじめは悪であるという意識を徹底させることはもちろんであるが、日々の些細な相手を傷つける言動から、根気強く指導をしていく。	
	自主、自律のある学校生活の育成を図る。	○規範意識の向上を図るとともに、集団の一員として、自ら考え行動する意識を育てる。 ●教員、児童アンケート肯定評価90%を目指す。	B		児童アンケート「学校や学級の約束を守っている」では、肯定意見は83%で昨年度よりも1%減少し、目標値よりも7%かけ離れている。	日頃の小さな荒れを見逃さず、全職員で声掛けをして指導していくことを、教職員が共通認識を持ち、根気よく指導を行っていく。	
たくましい心身の育成	体力向上に向けた体育の授業改善に取り組む。	○体力向上プランをもとに、児童のウイークポイントを改善するために、体育の指導に、意図的・計画的な活動を取り入れる。 ●教員アンケート肯定評価80%以上を目指す。	B	B	体育での活動も制限され、体力向上に向けた取組が1、2学期はできなかった。2学期後半より徐々に体育の授業で体力向上に向けた取組を再開させたが全体的には不十分であった。教員アンケートでも58%と低い値になった。	来年度のコロナの状況にもよるが、体育部が中心となり体力向上プランに沿った各学級での体育授業の進め方を検討し提案をもらう。	・県からの体力向上支援員の先生の授業を参観し、学校として県の施策を取り入れながら授業研究を進めているのがよくわかった。 ・学校の安全面では、学校の環境を整えていくことが大切である。環境が整っていないと、子どもの荒れにつながる。また、清掃活動を通して、学校の施設をきれいにしようとする児童の意識を育てていくことも大切
	外遊びや学級活動を通して、運動に親しませる。	○外遊びを推奨し、体育や休み時間の中で、運動時間の確保を図る。 ●児童アンケートで「体育・休み時間などに外遊びに出る児童90%以上を目指す。	A		児童アンケートでのA+Bの肯定意見は、88%で昨年度より、7ポイント上昇をしている。コロナ禍の中で運動不足であったことも影響しているかもしれないが、目標値の90%に近づきかかっている。	今後も運動の楽しさを味わえる遊びや学級全体で楽しめる遊びを紹介しながら、休み時間の外遊びを活性化させる。	
	「早寝・早起き・朝ご飯」等の健康的な生活習慣を身に着ける。	○保健やゲストティーチャーによる健康教育の充実を図り、個々の意識の醸成に取り組む。また、学校、学年だより、懇談会を通じ、家庭へ呼びかける。 ●児童、保護者、教員アンケートで95%以上を目指す。	B		6年生の全国学力状況テストの質問紙では、朝食95%、一定時間の就寝77%、起床90%となった。昨年度より一定時間に就寝の割合が13ポイント減っている。コロナ禍の影響で休校等の影響や実施した時期が11月下旬だったこともあり中学入試のための受験勉強もあり、生活の乱れにつながったと推測される。	引き続き、学校だよりや保健だよりを活用しながら、保護者への啓発活動を進めていく。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
	安全、安心の学校づくりに取り組む	○教室等の安全点検や施設確認を行い、児童の状況を生徒指導委員会等を通して情報を共有することで、事故を未然に防ぐ指導を行う。 ●健康上・身体上の配慮を要する児童の把握と当該児童への適切な対応を図り、事故・ヒヤリハット「0」とする。	B	B	日頃の安全点検や生活指導、安全管理により、大きな事故につながる事象は起きなかった。しかし、休み時間に転倒による怪我で病院へ行くケースがまだ多くある。	日々の安全管理や児童への指導を継続して行い、事故の未然防止に努める。教職員に安全管理マニュアルを常に意識させておく。児童の転倒による怪我を防ぐために、体作りなどあらゆる角度から防止を図る。	
特別支援教育	配慮を要する児童(通級在籍児童も含む)に対して、個々の実態に応じた適切な支援を行う。	○職員間での児童理解に努め、特化したケースについては、ケース会議等で理解・支援の検討を行う。 ○個々の支援について校内研修を実施。 ●教員アンケート「個々の実態に応じた指導・支援が行えた。」結果で、肯定的な回答95%以上を目指す。	B	B	教員アンケートでは、肯定評価88%となり目標値には届かなかったが、個々の実態に合わせて特支COが中心となり、ケース会議を開き配慮を要する児童への支援の在り方を検討し共通理解を図った。また、校内研修を通して特支在籍児童や通級在籍児童について情報交換を行い共通理解を図った。	今後も特支COや通級指導担当教員が中心となり、配慮を要する児童の支援の在り方をケース会議や校内研修を通して共通理解を図る。また、具体的な支援の方法について、校内研修を実施し、個々の支援のスキル向上を図る	・通級指導教室が昨年度より開設され、今まで学級の中で課題があった児童が落ち着いて学習でき、個々の特性に応じて専門的に指導をしていくことは良いことであり、今後も充実されることを望む。
	学びの連続性の実現に向けた校内支援体制の充実を図る。	○通級指導教室の活用を図り、通級担当教諭と連携し配慮を要する児童の校内支援体制の充実を行う。 ○保護者・関係機関との連携、活用を図る。 ●教員アンケート「保護者や関係機関と連携して、個に応じた指導・支援を行う。」の結果で、肯定的な回答95%以上を目指す。	B	B	教員アンケートでは、肯定評価88%と目標値には届かなかったが、昨年度開設した通級指導教室を開設したことにより、通級担当と担任が個々の支援について相談したり実際に支援を行ったりすることができている。	今後も通級指導教室との連携により、配慮を要する児童の個々の支援を充実させ、そのノウハウを共有し合い学校全体の取組に発展させる。また、ケースによっては特支COが中心となり保護者と相談しながら関係機関と連携し支援にあたる。	
教員の育成	教員の授業力の向上を図る	○授業研究を中心とした校内研究や動画配信による各学年研修を行い、教員一人一人の指導力の向上を図る。 ●動画配信によるICT研修を実施する。	A	A	全体研修による授業研究は開催できなかったが、講師を招聘し、教員が生徒役になる模擬授業を1回開催し、学び合いについての理解を深めた。ICTを活用した全体研修を実施し力量を高めた。	様々なテストや調査を活用し、児童の実態を分析し、課題を改善するための授業づくりの研修を深め、教員の授業力向上に努める。ICT活用能力を身に付けるため研修に継続して取り組む。	・授業でICTを活用している学級も多く、ICTの研修が進んでいることがよくわかる。コロナ対応で消毒作業など新たな業務が増えた中、よく頑張っている。 ・丁寧な対応に否定的な意見も数件あるので、各担任が自己分析することも必要。
	児童一人一人の理解に努め、個に応じた指導と支援に努める	○「こころと生活等に関するアンケート」も活用しながら、児童の実態把握に努め、日々の声掛けや相談に応じる。 ○一人で抱え込むことなく、学年、学校としてチームでかわり、改善を目指す。 ●保護者・児童・アンケートで肯定評価90%を目指す。	B	B	肯定評価は児童アンケート89%、保護者アンケート90%と目標の90%に近づいているが、保護者の中には、あまり当てはまらないと否定的な評価も9%いるのは事実である。児童の悩みやトラブルに保護者に安心して納得してもらえるように、今後も丁寧に対応していくことが求められる。	働き方改革を進めながら、教員が児童とゆとりをもってかかわれるようにしていく必要がある。問題が起きたときに、教員一人で対応するのはなく「報連相」を大事にチームとして対応できるように今後も学校全体で取り組んでいく。	
特色ある取組	児童が生き生き活動する学校行事、集会活動等に取り組む。	○魅力ある学校づくりの視点に立ち、児童の主体性を生かした、学校行事、集会活動を、新型コロナウイルス感染状況を観ながら実施する。 ●アンケート結果の肯定評価を児童、保護者80%、教員80%以上を目指す。	B	B	保護者アンケートでは、A+Bの肯定意見が91%と昨年度と同じぐらい(1%減)の結果であったが、本年度はコロナ禍で活動が制限され、限られた行事しかできなかったのが現状である。コロナ禍の中でも対策をしながら取り組んだ結果の評価と考えられる。	今後もコロナ感染に留意しながらの学校行事や集会活動になると予想されるが、感染予防をしっかりと行つた上で、児童が生き生きとする行事や活動に取り組んでいく。	本年度は、コロナ禍の中、工夫して学校行事を進めていたと思う。
保護者・地域との連携	家庭・地域と連携し、子どもの成長や教育課題に向け、協力して取り組む。	○学校、学年、学級だより、HP等で、学校の方針や活動の様子を伝える。 ○地域や保護者と連携し、学校のさまざまな課題に取り組む。 ●保護者・教員アンケート「学校公開、HP、学校・学年・学級通信で学校の様子を伝える。」結果で、肯定的な回答 90%以上を目指す。	B	B	保護者アンケートでは、A+Bの肯定評価が88%と昨年度と同じで90%以上にはならなかった。教員アンケートでも76%と低い値である。日々の業務でHPの更新や便り等に余裕がない学年もあるのが現実で、運営を見直す必要がある。	今後も学校行事等の取組や学校の方針を学校だよりHP等を通して発信を行っていく。今年度は、コロナ禍の中、学校公開等で保護者や地域の方に学校の様子を観てもらえることが少なかったが、コロナの感染の状況も観ながら感染対策を行った上で、開かれた学校づくりを進めていく。	・学級通信は、先生方の業務もあり強制的にはできないし、学年で揃えないと保護者の不信感にもなる。通信だけでなく学校の様子をどのように伝えるのか学校内の検討も必要。
業務の改善	業務の改善を図り、勤務時間縮小に取り組む。	○会議や業務内容の見直しを行い、効率的な事務処理や業務を行えるよう工夫する。 ○勤務時間の現状を把握しながら、勤務時間の削減に向けて努力する。 ●勤務時間終了後の、超過勤務時間を月45時間以内になるよう努力する。	B	B	超過勤務時間を縮小しようとする職員間の意識改革は進んでいる。勤務終了後の超過勤務は、月45時間以内には収まっている。繁忙期も含めて今後さらに超過勤務時間が減少できるように業務改善を行っていく必要がある。	コロナ感染対策の業務やギガスクール構想実現のための準備等で業務内容が増えているが、学校行事等の見直しも含め精選できる機会でもあるので検討を進めていく。	コロナ禍で業務が増えたのではないかと、新しいこともどんどん入ってきて大変だと思いが、先生方の働き方改革は進めてほしい。